

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10579001				
授業名	文学作品と文学表現 A	形態	講義	単位	2
担当教員	白井 伊津子				
開講学期	2017年度 後学期	曜日・時限	月曜2限		
授業目的	日本古典文学の主要な流れ（文学史）を知識として身につけるとともに、文学作品が社会のさまざまな背景・環境を踏まえて成立することを作品（表現）の読解を通して学び、時代を超えて普遍的なものへの共感的な感性を磨く。				
授業内容	具体的には、わが国最古の歌集である『万葉集』の、とくに大伴家持の作品を取りあげ、歴史、風土、文化、思想的な背景などにも触れながら読解していく。				
到達目標	1・文学史の基礎的な知識を習得している。 2・文学作品読解のための基礎的な方法を理解し、作品を正しく解釈することができる。 3・文学作品と自己との関係に関心を持ち、内省することができる。 4・文学への興味と関心を高め、継続して作品を鑑賞する態度を育んでいる。				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)>「人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。」の中の、とくに文化に該当する。				
授業形態	主として、アクティブラーニングの学習法のひとつであるLTDの形式によって進める。LTDでは、テキストの理解を深めるために、毎時、受講生同士でのグループ討議を行っていく。従って、事前学習として、テキストの予習が不可欠である。				
事前・事後学習の所要時間	本講義科目半期2単位の修得のために、講義時間30時間と事前事後学習時間60時間を要する。各回の事前学習、事後学習の欄において、所要時間を確認のこと。				
テキスト	鉄野昌弘著『日本人のこころの言葉 大伴家持』（創元社）2013年刊				
評価方法	5回、10回、15回に実施する知識・理解度テストは、到達目標の1に対応しており、この成績に評価の30%をあてる。なお、基準点（6割）に満たない場合、授業内に実施する再テストを受けなければならない。 事前・事後学習の内容は、到達目標の2～4に対応しており、この内容に評価の40%をあてる。グループ討議は、到達目標の2～4に対応しており、貢献度に評価の30%をあてる。				
評価基準	事前・事後学習の内容（40点）、グループ討議における貢献度（30点）、第5回・10回・15回に実施の理解度テスト（30点）によって総合的に評価する。なお、理解度テストは基準点に満たない場合、授業内に実施する再テストを受けなければならない。 0～59点：不可、60点～69点：C（合格）、70点～79点：B（合格） 80～89点：A（合格）、90～100点：S（合格）				
試験・レポート等のフィードバック	5回、10回に実施の知識・理解度テストは返却する。 14回までに提出された事前学習課題は、評価を付して返却する。不足していた箇所を補い再提出することが望ましい。				
注意事項及び履修条件	本講義はLTDの形式で進めるため、授業前の事前学習は不可欠である。				
S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満					
第1回					
事前学習	講義要覧を読み、授業の目的と到達目標を確認する。また、指定したテキストの「はじめに」（P. 1～4）の箇所を読み、わからない語句について辞書等を用いて調べておく。所要時間120分。				
授業内容	わが国最古の歌集である『万葉集』について、編纂された時代、収められる歌の歌風などについて、和歌史における主要な歌集と比較しながら概説する。 本時の到達目標としては、（1）『万葉集』という歌集の編纂された時代と歌風について概要を理解すること（2）三代集・三代集について学ぶこと、（3）本講義における学習の進め方を理解することの3点である。				
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。また、『万葉集』の時代に即して、関心のあることがらなどを取り上げて詳しく調べる。所要時間60分。				
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。				
第2回					
事前学習	テキストの「初々しい初恋を歌う」（P. 14～17）の箇所を読み、課題プリントを仕上げしておく。所要時間180分。				
授業内容	大伴家持の初期の詠物歌（巻6・994）を取り上げて読解する。その際、『万葉集』の構造と、歌人の基盤となる教養の形成という点に触れる。				

	本時の到達目標としては、(1) 取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること(2) 『万葉集』の編纂のあり方、三大部立について学ぶこと、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。歌を学んで、感じたこと、考えたことをまとめる。所要時間60分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第3回

事前学習	テキストの「逢えない人のよすがに」(P. 18～21)の箇所を読み、課題プリントを仕上げしておく。所要時間180分。
授業内容	大伴家持の初期の相聞歌(巻8・1448)を取り上げて読解する。家持を取り巻く人間関係、あわせて、物に仮託されるイメージの形成のあり方についても触れる。 本時の到達目標としては、(1) 取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること(2) 物に仮託されるイメージの形成のあり方について学ぶこと、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。テキストの関連箇所(P. 22～31)を読み、理解したことをまとめておく。所要時間60分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第4回

事前学習	テキストの「恋の手練を楽しみながら」(P. 26～29)の箇所を読み、課題プリントを仕上げしておく。所要時間180分。
授業内容	紀女郎から贈られた歌に対する、大伴家持の返歌(巻8・1462)を中心に取り上げて読解する。人と人の心の交流に果たしていた、当時の歌の役割について考える。 本時の到達目標としては、(1) 取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること(2) 歌の贈答のあり方について学ぶこと、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。テキストの関連箇所(P. 42～45)を読み、理解したことをまとめておく。所要時間60分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第5回

事前学習	知識・理解度テスト(1)に備え、これまでの学習を振り返っておく。また、これまでの学習から感じたこと、考えたことを口頭で的確に伝える練習をしておく。所要時間180分。
授業内容	知識・理解度テスト(1)を実施する(実施後すぐに解説)。また、第1回から第4回までのまとめとして、グループ討議を行い、グループの代表者が全体発表を行う。 到達目標としては、(1) 古代の人々の、歌を用いた心の交流のあり方と、現代のそれとを比較して考察できること(2) グループ討議において、自身の考えを的確に伝えるとともに、さまざまな意見を聞いて考えを深めること、の2点である。
事後学習	疑問点が解決できたか振り返りつつ、学習内容を整理した上で、知識として定着させる。所要時間60分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第6回

事前学習	テキストの「万葉仮名」(P. 50)「人を喪った悲しみを力に」(P. 52～55)の箇所を読み、課題プリントを仕上げしておく。所要時間180分。
授業内容	大伴家持の「亡妾悲傷歌」より、一首(巻3・462)を取り上げて読解する。その際、古代の人々の季節感の形成と中国の詩文の影響についても考える。あわせて「万葉仮名」について解説する。 本時の到達目標としては、(1) 取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること(2) 古代の人々の季節感を知ること(3) 「万葉仮名」について理解すること、の3点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。テキストの関連箇所(P. 56～65)を読んで理解したことをまとめておく。所要時間60分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第7回

事前学習	テキストの「生のはかなさと永久の時間と」(P. 74～77)の箇所を読み、課題プリントを仕上げしておく。所要時間180分。
------	---

授業内容	大伴家持の「安積皇子挽歌」より、一首（巻3・480）を取り上げて読解する。古代氏族のあり方を学び、佐保大納言家の嫡子としての家持の生き方を考察する。 本時の到達目標としては、（1）取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること（2）律令制度と古代の氏族について理解し、家持の生き方を考えること、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。テキストの関連箇所（P. 66～73）を読み、理解したことをまとめておく。所要時間60分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第8回	
事前学習	テキストの「うつせみの世の不条理を嘆く」（P. 82～85）の箇所を読み、課題プリントを仕上げしておく。所要時間180分。
授業内容	大伴家持が病に臥した時の歌（巻17・3963）を取り上げて読解する。当時の時間意識や仏教思想を通じた人間観について考察する。 本時の到達目標としては、（1）取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること（2）当時の仏教思想について理解すること、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。テキストの関連箇所（P. 86～89）を読み、理解したことをまとめておく。所要時間60分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第9回	
事前学習	テキストの「人生に限りがあるから名を立てたい」（P. 100～103）の箇所を読み、課題プリントを仕上げしておく。所要時間180分。
授業内容	大伴家持の「勇士の名を振るはむことを慕ふ歌」の短歌（巻19・4165）を取り上げて読解する。山上憶良の歌（巻6・978）と比較しながら、佐保大納言家の嫡子としての家持の生き方を考察する。 本時の到達目標としては、（1）取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること（2）家持と憶良の人生観について考えること、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。テキストの関連箇所（P. 98～99、104～107、112～113）を読み、理解したことをまとめておく。所要時間60分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第10回	
事前学習	知識・理解度テスト（2）に備え、これまでの学習を振り返っておく。また、これまでの学習から感じたこと、考えたことを口頭で的確に伝える練習をしておく。所要時間180分。
授業内容	知識・理解度テスト（2）を実施する(実施後すぐに解説)。また、第6回から第9回までのまとめとして、グループ討議を行い、グループの代表者が全体発表を行う。 到達目標としては、（1）歌の読解を通して理解できる、古代の人々の思想や生き方と、現代のわれわれのそれとを比較して考察できること（2）グループ討議において、自身の考えを的確に伝えるとともに、さまざまな意見を聞いて考えを深めること、の2点である。
事後学習	疑問点が解決できたか振り返りつつ、学習内容を整理した上で、知識として定着させる。所要時間60分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第11回	
事前学習	テキストの「七夕に孤独をかみしめて」（P. 120～123）の箇所を読み、課題プリントを仕上げしておく。所要時間180分。
授業内容	大伴家持の「七夕歌」より、一首（巻17・3900）を取り上げて読解する。古代における年中行事の受容と、それを歌に表現することについて学ぶ。 本時の到達目標としては、（1）取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること（2）年中行事の受容について理解し、その歌の表現のあり方について考えること、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。所要時間60分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第12回	
------	--

事前学習	テキストの「越中の風土への畏敬と違和感」(P. 130～133)の箇所を読み、課題プリントを仕上げしておく。所要時間180分。
授業内容	大伴家持が越中に国守として赴任していた時の歌より、一首(巻17・4024)を取り上げて読解する。古代の人々がどのように自然に向き合い、それを歌として表現していたのか考察する。本時の到達目標としては、(1)取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること(2)叙景歌を通して、古代の人々の自然の捉え方を考えること、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。所要時間60分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第13回

事前学習	テキストの「遙か都を思う心が浮き上がってくる」(P. 136～139)の箇所を読み、課題プリントを仕上げしておく。所要時間180分。
授業内容	大伴家持の「越中秀吟」より、一首(巻19・4139)を取り上げて読解する。『万葉集』の、景物とそれに対する心情を詠む歌と比較しながら、家持の歌の独自性について考察する。本時の到達目標としては、(1)取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること(2)景物と心情を詠む歌、および序歌の表現形式について理解すること、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。関連する箇所(P. 140～149)を読み理解したことをまとめる。所要時間60分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第14回

事前学習	テキストの「良いことよ重なれという祈り」(P. 164～167)の箇所を読み、課題プリントを仕上げしておく。また、「大伴家持の生涯」(P. 174～205)の箇所を通読しておく。所要時間180分。
授業内容	大伴家持が因幡国庁で正月一日に詠んだ歌(巻20・4516)を取り上げて読解するとともに、大伴家持の生涯を振り返り、歌人としての生き方を考察する。本時の到達目標としては、(1)取り上げた歌の意味と作歌の背景を理解すること(2)大伴家持の歌とその生涯について考えること、の2点である。
事後学習	学習内容を整理した上で、知識として定着させる。テキストの関連箇所(P. 160～163)を読み、理解したことをまとめておく。所要時間60分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

第15回

事前学習	知識・理解度テスト(3)に備え、これまでの学習を振り返っておく。また、これまでの学習から感じたこと、考えたことを口頭で的確に伝える練習をしておく。所要時間180分。
授業内容	知識・理解度テスト(3)を実施する(実施後すぐに解説)。また、全体のまとめとして、グループ討議を行い、グループの代表者が全体発表を行う。到達目標としては、(1)人々の思想や生き方が、文芸的な営みとどのように関係があるのか考察できること(2)グループ討議において、自身の考えを的確に伝えるとともに、さまざまな意見を聞いて考えを深めること、の2点である。
事後学習	他者の意見を聞いて、さらに考えたことをまとめておく。興味をもった古典文学作品を鑑賞する。所要時間180分。
参考文献	『新編日本古典文学全集 万葉集1～5』小学館、『日本古典文学大辞典』岩波書店、『上代文学研究事典』おうふう、『国史大辞典』吉川弘文館、『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社など。その他、授業時に適宜指示する。

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p><DP-1> 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。</p> <p><DP1-(1)> 日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p><DP1-(2)> 情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。</p> <p><DP1-(3)> 問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に</p>
-----------	---

付けている。
<DP1- (4) >
人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。